

五年十一月九日
在「プエノス・アイレス」

一、在帝國外徵集延期願 昭和十六年度徵兵適齡者即 大正九年十二月二日より同 十年十二月一日まで出生 したる者に於ては徵集延期を 願はんとする者は本告示附 屬書式甲號により願書正副 二通を當館に提出すべし 二、在留申告書 既に徵集延期の許可を受け 居り引續きに在留せんとする 者の内明治三十七年十二月 二日以後に出生したる者は 本告示附屬書式乙號により 在留申告書正副二通を當館 に提出すべし 三、徵兵適齡者 徵兵適齡者に於て前キ一 の在帝國外徵集延期願を提 出する外その他の戸主は本告 示附屬書式丙號により右適 齡者の徵兵適齡届一通を直 接本館地市區町村長宛明年 一月中旬に到達する様提出 すべし、適齡者自身が主なる ときは自ら右の適齡届を差 出すべし 四、用紙 當館に於て印刷したる用紙 を用ひ届出爲さんとする者 は當地其他の各日本人會並 に在「アスニヤン」及在 「チヤンキョウ」各帝國公使 館出張所に右用紙を請求せ られし、但し郵送により 用紙の送付を受けんとす	用紙の代りに普通の「プロ ツク」紙を用ふものも差支な きも此の場合には延開願又 は申告書の未段に 帝國領 事の奥書證印を爲すに必要 なる餘白を存しおくべし 本事務取扱に關しては手數 料は一切徴收せず 但し當館へ提出の届書に對 する受理通知書を希望する 者は提出書類に郵券五仙を 添付すべし 六、郵便宛名は左の通り（郵便 郵便宛名には左の通り（郵便 は「アスニヤン」帝國公 國領事館 Consulato del Japon Casilla de Correo N.º 607 Buenos Aires 在「アスニヤン」帝國公 使館出張所 Cancilleria de la Legación del Japon Casilla de Correo N.º 565 Asunción, Paraguay 在「モンテビデオ」帝國公 使館出張所 Cancilleria de la Legación del Japon Calle Francisco Solano Antuña 2770 Montevideo, Uruguay 尙發信人の姓名住所は必ず 封筒に明きせられし (以下)
---	---

一、本人氏名	大正何年何月何日生
二、本籍地	何縣何市何區何町何村何番地
三、在留地	「アルゼンティン國」何州何市何町何鐵道線村何第何番
四、帝國內出發年月日	何年何月何日何港出發
右ノ通り帝國外ノ地ニ在留中ニ付兵役法第四十二條ニ依リ徵集延期相成度候也	
昭和何年何月何日	
何縣除區徵兵官殿	本人氏名

一、本人氏	何年何月何日生	名
二、本籍地	何縣何市何區何町何字	何番地
三、現在留地	「アルゼンティン國」何州何市何町何街第何番	何日
四、初メテ徵集する年月日	何年何月何日	
右及申告候也		
昭和年	月	日
本人氏名		印

「記憶確實ナラズ」と附キ

新地	縣市區郡町村字番地
本人現住地	本
族稱	(某長二男(兄弟)本人戸主ナルトキハ戸主ト記入スベシ氏名傍訓ヲ附スベシ)
山生	大正年月日生
人ノ職業	[現時ヲ記スト其ノ就職年(營業アルモノ)從前ノ就職年(就職年)]
特有ノ技能	(乘馬、游泳、柔道、劍道、歌舞、音曲等)
就學程度	[高等小學校卒業(何々卒業導實際修業セシ學歷(不就學者))ニ在リテハ其ノ旨ヲ記ス]
石徴兵適齡ニ達セしニ付及屆出候也	
現住地	(本籍地外ニ現住スル場合ニ限り記載スルトス)
昭和年月日	
阿市、區、町、村、長殿	戶主氏名印

謹啓 時下酷暑の折諸兄益々御健勝之段奉大賀候
陳者本年度總會はビクニツカを兼ね催し度く存候
依つて日時會場は左記の通り致し候故萬障繰合
せ御出席被下度此段御案内申上候
左 記

日時 二月二日（日曜日）正午より
場所 日本人會運動場（南部緑ブルサコ町）
猶、當日はアサード、飲物の用意は致し置き候
但しテネードール及びクチャージヨは各自御持參被
下度候

一月七日

八 紘 同志會

會員各位

口數	第六回發表(略敬稱)	氏名
五	五	河西太
五	五	荻野健
一〇	一〇	宮崎惟
一〇	一〇	玉城男
二〇	二〇	玉城福太
五	五	橋本良
五	五	谷本拓
五	五	新田榮
五	五	吉嶋寅

吉野寅
原田靜

羽生 一七	渡辺 五
阿部 七	ルベ 五
吉川 三〇	秋吉 二〇
浅野 一〇	政子 二
高市 二〇〇	文雄 五
森藤 五	三愛會 五
青山 二〇	松丘 五
星野 五	守利 五
仲村 五	梁 五
宮本 五	文文 五
福島 一〇	茂明 五
古城 二〇	茂 五
湯淺 二〇	新 五
仲新 二〇	眞彦 五

一〇	宮里良功
五五	仲里清盛
五五	仲里保正
二五	石川龜下
一〇	山ノ内勇藏
一〇	同マヌエラ
一〇	森川益實
一〇	山里栄光
一〇	宮本實雄
一〇〇	宮園新之助
五〇	株社會社
五〇	岩井商會
三〇	仲田兄弟
二一	吉田兄弟
二一	サンタフェ日會拔
三三	ツクマン日會拔


TRANSRADIO INTERNACIONAL
Compañía Argentina de Telecomunicaciones S. A.
CORRIENTES 500 U. T. (31) 4701

日本への國際電話

通話料 三分間八十五磅 以後一分毎に
二ト八磅三十五仙 其の他詳細は上記に

新刊到着

◎歐洲の内幕 大江專一譯 三巻 ◎亞細亞の内幕 同
三巻五〇仙 ◎西郷隆盛傳 武者小路實篤著 三巻五〇仙
◎涙の責任 竹田敏彦著 三巻四〇仙 ◎生花の水揚法
一巻五〇仙 ◎熱情の翼 同 二巻五〇仙 風雲將棋谷
角田喜久雄 二巻六〇仙 ◎病院船 大嶽康子著 一巻
八〇仙

藏田書店

カセロース街一九八三
電話 一三一九八七二

時計販賣
並びに修繕
○裝身具各種取揃へて居ります
○電話○御一報次第參上致します
東京堂時計店
エントレ・リオ街五四一
電話 三八一五六一七

KEROFIX
Del Sr **ALEMAN (MARTIN)**
Talleres :
CHARCAS 4511
Unión Telefónica 71 - 3998

製作、販賣、修繕、取付、交換、引受
当方はカーサ・ボルカン以來御翻
染の獨逸人で日本人間に數多の顧
客を有し仕事は入念、迅速
電話で御一報次第至急參上致します

●便箋、封筒、名刺其他
 多少に不拘御用命願上ます

西和文活版印刷
 ツポニ堂

サンチャゴ・デ・エステロ街九七五
 電話 二三一七八六四

カフエ
 薩摩
 有水武二
 久松純雄
 竹ノ内武義
 加藤吉隆

日本式
 マツサージ
 鍼灸治療
 山田式温灸をお試しあれ
 電話で御用命下さい早速
 参上いたします

山田忠重

セバール・オルノス街五四
 電話 二六二一五三六
 セバージュ街 一二七六

SASTRERIA DE MEDIDA
FINA
— De —
DIMARCO HNOS.
Montes de Oca 2052
U. T. 21 - 2445

御一報次第直ちに店員出張致します

ます

月賦拂ひで仕立て

九十ペソより

上等洋服類

ERNESTO
COCO
15 de Noviembre 2335
U. T. 23-2835

日本茶、わかめ、
こんぶ其他日本食料品種々有り

下門正

レイバ街 四〇二九
電話 五四一七八一二

ケロセン廉賣

永年日本人洗濯店並ニ御家
庭ノ御最ヲ蒙ツテ居リマス

東洋軒 ▲▲
ペンテシニコ・デ・マヨ街
五三二(階) 電話三一—
一九二三
◎純日本料理並びに井物、
御宴會にも應じます
▼▼▼
東洋バー ▲▲▲
リエンテス街 四三二—
電話 三一—六三九四
●夜間営業して居ります

●

J. Martinez Fandiño

Corrientes 418

●

特別に勉強致しますから何
卒業店に御用を願ひます

圓の兩替

D E Z
Unico
T. Darwin 1108
カ
ル
デ
ラ
ア
バ
ボ
ル
販
賣
 新
 古
 品
 大
 小
 型
 各
 種

ECONOMIA
U. T. 37 - 4146
Rosselló
O PUBLICO

● 法律事務一切
● 市役所の出願手續

◆ ネゴシオの賣買

A. M. E.
Taller M.
CALLE VERA 737



最新式獨逸療法
淋病根治療法
海毒一六〇六號九一四

CLINICA
CANGAI
CALLE CANGAI
ATENDIDO PERSONALMENTE POR
Dr. A. GO
MEDICO CIRUJANO

婦人病 心臟 胃腹
肺 腎臟 神經系統

◎ 日本人方には初診無料
X光線 デアテルミー
血液検査

診察日
自午前九時至十二時
自午後三時至九時

日曜、祭日午前中

事務所
マガ
ジャ
ネス
街一
三三
八

V・フェルヌフト

を驅つたのはこの翌朝であつた。きのふの雨で葦林いつばかり静寂で、威勢のある「ト」の聲をあけてゐるゝと、これは名古屋・コチン種である。」「最後までチュエーロッパに踏みこんだ日本人は一時貧窮のどん底に陥つた。そこで愛知縣海部郡高田村出身の山岡由太郎(五三)さんが考へた。故郷から甘羽の鶏をよる。よせたのであるその鶏がいる。このあたりは世では七百羽になり、月に卵を界的に有名なコービーの産七千個を生ゝ。白人の間に好評地であつたが世界の生産過で二個九セントに賣れる風聞。刺による價格の大暴落からさしはし朝日ホテルといふコービーはキナの木に植ゑ、旅館を經營してゐる。

チュエーロッパからカバの山旅を快くしてアスファルトの過ぬくドライブ・ウエイ八十キロ印度洋岸の古きベンタンのこの町の人。人口二萬二千のこの町の中央にミールブルウの要塞があつた。これは一七四四年イギリス

その名もカンボン・支那の「カンボンは部落、支那村の」といふメンストリートに日本人雜貨店二軒、支那人けいもゐるが、重慶政府が躍起となつてゐる獻金運動に集まつたのは九千ギルダー程度であつた。

(つづく)

御案内

石油、ゴム、錫の寶庫

裸一貫邦人突撃の百八十年

亞國農務省農村經濟統計

府の安泰性を脅かす地方運動に對しては、中央集權は毎々それを彈壓してつゞけてゐた。中央集權のサンブルのやうに考へられてゐたフランスの民族性は、まづこの點から再檢討されねばならない。

地方州と

中央集權主義

統一國家フランスは、本來自然の所産ではない。フランスの國土は多數の地盤に分れてゐる。現今、地方釐州は、地理學的に必然性によつた。革命はまづ地方民によつた。戦争を光榮視する者

熱と光榮への憧れを、その奥底に藏してゐる。人はこれを飽くまで必要視するものである。F.C.クラム教授著「獨逸と英國によつて戦争程収入の新しいものはない。即ちニュースが多ければ多い程、その發行部數を増すものであるから」ロイス・ディクス著「國際露政府主義より」余は士官の稱號を得るや否や戦争を求めて歩いたが、是は當然の歸趨であらう。ウインストン・チャーチル著一九三二年「思想と冒險より」

英帝國は如何して建設されたか、余の見解を以つてすれば、之は戦争によると信ずる。我等英國人は、武力によつて得た地球の三分の二に當る廣大な領土の主人である」ロッド・ロバート著「祖國に與へるメッセより」一九三三年

英が築いた舊要塞
この町の北四十キロのところにモアラマンの金山がある。いまは見る影もない金山だが、三、四十年前まではここに金や産出してモアラマン、チュロップの二つの町はこの金山のため活気に満ちてゐた。
當時、名譽な話ではないわが娘子軍は入らんところにまで二百人も入り込んでゐた。いまはモアラマンの廢れた鎖山町に日本人寫眞屋が一軒、それにメナカボーと結婚してゐるおきよと呼ぶ五十歳

か國日の軍事秘探といつた爲策した古都であつた。
一八二四年オランダに譲られ、今ではイギリスの軍事的中心地であつた。高さ三メートルほどの灰色の壁に囲まれ、その上に生えた龍舌蘭の葉蔭から舊式の大砲は五門、砲門をのぞかせてゐた。中はいま兵舎になり、百名ばかりの土民兵がゐる。海岸には鐵條網が張りめぐらされ迷彩をほどこし

賣店
盛業中のテニント
レリヤ、設備完備部都合して買取りた

拜啓
時下益々御多幸之段奉
候
陳者來る一月二十六日「日曜」
恒例の本組合主催大ピクニックを左記の場所にて於て舉行致し各機銃技、オルケスト、ダンス・ボール（ブルノ付）大音楽隊の調催有二位候へば何卒御家族御仲間友御誘合の上賑々數く御來會被下度此段御案内申上候儀具所　オリボス町エスポーラ街三千番シロス【例年と同じ】
昭和十六年一月十五日

屋發表の本年度の穀物及び 亞麻の生産豫想高は	亞麻 四三三、〇〇〇	九三六、二〇六	一〇
	燕麥 二二三、七〇〇	九六六、二一八	
(單位千噸)	大麥 六〇、七〇〇	サンタ・フェ州	
小麥 七、五〇〇、	ライ麥 四九、五〇〇	一・二四 六二七・五	
亞麻 一、五六七、	アルビステテ、八〇〇	八・八五 一五・三	
燕麥 六四二、五		一・八七	
大麥 七九九、三	減收の最大の原因は、最近	エントレリオ州	
ライ麥 四三〇、五	の降雨、當その他に原因と	一一・七 一七八・四	
アルビステテ 三〇、二	ところでは本年度の一般減收	四・九 一・〇五	
今日の發表は、昨年十二月	は約一・四%とみられて	三〇、四三	
十三日の生産豫想高に比し	る穀物の生産額豫想を州	コルドバ州	
で、夫々次の如き減少をみ	別すれば、	二・四八七 二八九・八	
てゐる。		一四・二 一二・九	七
	(小麥、亞麻、燕麥、大		

五 ×
サンチアゴ州
二九・五九・八五 三
七・二一・七九 一・
二六 ×
バンパ州
五五・三一・一六・二二
七・二一・一四・二二
三〇・七〇・七三
其他(州及び領土)
四三・二七・六三・五
二〇・八七 〇・八 ×

夫婦者又は拾五歳以上の子供ある夫婦者にて、男はカンチエロとして働き、無驗者にてても可。女は炊事の出来るものに身體強壯なるものを望む

日本庭球俱樂部
希望者は左記で書狀にて申込まれたし

Secretario de nippon
Tennis Club
Calle Moreno 2037 -C

附記
コレクティボス 二九番六八番
會場前通過 五七番 五番
九番 七(番 譯まで
〓御注意〓
飲物並にコルデオを御持參なさると罰金を課せられる。飲物は會場内にて左の値段で販賣いたします
セルベス五〇仙 ナラン
ハニ一五仙 ナラン
ビノ五〇仙

VENTA DE KEROSENE

油石  販賣

Cities Serv. Oil Co. of Argentina^o
FLORIDA 229 p. 3o. of. 322

御注文は本社特契販賣人へ
新城清林 電話41-5589

日本人雜貨店二軒、支那人は五千人もゐるが、いづれもゴリヤン、四代目で祖國觀望がうつつの如く、重慶政府が躍起となつてゐる獻金運動に集まつたのは五千ギルダー程度である。(つづく)

の百八十年

た。B.P.m.石油會社の倉庫があつた。

祖國愛の薄い華僑

その名もカンボン・チナ（カンボンは部落、支那村の

寶庫



思
 へ
 による

LUIS GORI HNOS.
 U. T. 23 - 2897
 Lima 1030

片山良平

バルカルセ街一四七
電話 三三〇四八八

帽子木型製造販賣

仕事の上手下手は型の差

ロドリゲス
チャカブコ街八九六
電話三四一一一九二
全(私宅)
二二一四五六

ホフマン式ブランチャ機
並カルデラの修繕取付
切廉價にひきうけます
ホフマン會社指定機械
トリビオ・ゴーマー

御下宿
 昭和館
 ●御註文は前以て
 原料精選

日本座敷
文化住宅
建築

大工指師山 本 玄

コルドバ線フロリダ町ビージャ・マルチレ區
スフラテギ四番 電話七四一(フロリダ)三一五

血液、尿、喀痰の検査は武市大學教授
ツフオ博士が擔當して居ります

28 - Suiqacha - 2
 日曜祭日は午前中
 診察料三ベソ
 午前九時—十二時
 午後三時—八時
 電氣治療科
 X光線科
 婦人科
 各科専門醫十名—

News

8

◆ ◆ ◆

肺結核新療法

◆ ◆ ◆

淋病梅毒

治療代は全治後頂きます

FRANCISCO
 Ex mecánico de
 CONSTITUCIÓN
 U. T. 45
 フラン
 サンテ
 理想的健康帶
 ◎本健康帶の常用は



SANTERO
la Cia. Hoffman
TION 3229
-0294

シスコ
一口

Gr

S.
RIVADA

迅速に配達致します

フランクヤ機並びにセントリ
フーが製作、販賣致します



an Taller
de
MIYAZONO
VIA 3519 U. T. 62-2085

△ クエジヨの御用命は
幣店の専門部へ
△ 仕上能率一日三千本

一
 般
 食
 料
 品
 及
 び
 西
 販
 商
 味
 噌
 醬
 油
 の
 釀
 造
 御
 一
 報
 次
 第
 配
 達
 致
 し
 ま
 す
 ア
 ウ
 ス
 ト
 ラ
 リ
 ア
 橋
 二
 一
 二
 九
 電
 話

100

7	1
---	---

11

五二店

死産の増加が頭痛の種

には同國に對する短期の安定資金のより以上に確保、肉類の輸出を増す必要がある」

と述べてゐるが目下のところ米國は亞細の總輸出額の僅かに一〇%を購入してゐるのみであり、且つ衛生法の制限により、肉類の輸出は相當困難である。政治、經濟、財政に八方塞りの上失業者救済、農業問題の局面轉換のためにはオルテイス大統領の叫聲は高く、内閣の弱體性は、最早如何ともしない状態にある。

二十七年年度は二四・七二〇名、死亡率は年々増加の一途をたどつてゐる。

昨年度は出産、死亡の増加とともに死産率も増加し、三九年に比して一〇・四%の増加を示してゐる。

モンテの山田
支店組織を變更
山田商會モンテビデオ支店
は、昨年十一月四日より、組
織を變更し山田惣四郎、
木村政五郎、相良周吉、
坂本辰吉、森田正幸の五
人に、遂に、場内の草が燃え、
火が起り、場内のガが燃え、
塀内警備兵によつて消し止め
られたが、ハンガー二個を燒
き、負傷者五十名を出した

公人
私人

▲八紘同志會では来る二日ブルサコ日會運動場で野遊會を催すが、當日雨天の際は二月九日、日會館で總會を開く筈である

▲八木末治氏（大日本セルリヤ會士員）南米見察の

【以て會社となし、今後の日
鳥貿易に一層の拍車をかける
こととなつた
▲日會婦人部裁縫講習會は去
る廿三日午後六時より日小

▲島川太氏（大同支店長）も
め目下在伯中の氏は近く來
亞する由

なり、日會青年部に五十歳
寄附した

▲石原金次氏 もんて丸にて
歸國の同氏は日會へ廿歳寄
附した

▲沖田靜馬氏 村武夫妻の娘

より三問題提出す
夜芝公園紅葉館に於て拓殖
協會主催晚餐會、極て盛大

會閉會式參列（歌舞伎座）
後觀劇、放送打合せ會出席

日黑雅敍園にて

府拜觀午後各部會報告、總會決議、閉會、夜帝國ホテ

同 十日 紀元二千六百

川後樂園にて東京市長招待
園遊會

||明日日會運動場にて||

於増率に因は、
 禁止セシム
 BAR "LOS A
 Billare
 Victoria 9
 是非ロス・アンデスへ
 ビクトリア街九八一
 日本人方々の御集りの場所として
 有名です
 ナフタ並に
 ケロセン
 販賣
 吉田彌三郎
 (バルカセ街角)
 市内ルハ、街三八
 電話 三三二一 六五四

知 話 天 ア 宜 ふ と 公 方 で れ 者 た ラ

++++++
さつ ま屋
++++++

御旅館並に御下宿

●交通の便よき中心に在り
●宴會、ビクニツク其他の
仕出及辨當の御用面に應

日 高 喜 作

レコンキスタ街五八五番
(第一階、デバルトA)
電話 三二一六九〇六

◀ コ ボ マ カ ▶

製造日 火木土曜
配達日 水金日曜
地方や田舎への御
産に至極調法
アベジャネーダ
ビルコマージョ
二二二
關 口

電話(二〇)九二二二

or ケロセン ナフタ

此賣乗れにま同し出
 NDE LA
 33 - 34
 ARCH
 ker''

 a S. A.
 1900
 is Aires

GRAN PREMIO EXPOSICION
INDUSTRIA ARGENTINA

BILLARES BRUNSWICK
BANDAS MO

Ultima novedad "Snow"
Solicite inform



Cia. Brunswick Sudamerica

1894 - CANGALLO -
U. T. 47, Cuyo 3577Buen

急募

KEROSENE YN
NACIONAL
—de—
Luis M. Gardet

ケロセン、ナタフ

の御用命を願ひます

ベアウチエフ街一〇四九
電話 六〇——一九二五

廿歳未満の眞面目青年店員を募集しま
す寫眞同封の上當店宛履歴書を郵送され
たし

ビクトリア街 二〇七二

泉

於増率に因は、チン禁使

BAR "LOS A
Billare
Victoria 9

是非ロス・アンデスへ
ビクトリア街九八一

日本人方々の御集りの場所として
有名です

ナフタ並に
ケロセン

販賣

吉田彌三郎
(バルカセ街角)

市内ルハ、街三八
電話 三三二一 六五四

知 話 天 ア 宜 ふ と 公 方 で れ 者 た ラ

++++++
さつ ま屋
++++++

御旅館並に御下宿

●交通の便よき中心に在り
●宴會、ビクニツク其他の
仕出及辨當の御用面に應

日 高 喜 作

レコンキスタ街五八五番
(第一階、デバルトA)
電話 三二一六九〇六

◀ コ ボ マ カ ▶

製造日 火木土曜
配達日 水金日曜
地方や田舎への御
産に至極調法
アベジャネーダ
ビルコマージョ
二二二
電話(二〇)九二二二
關 口

or ケロセン ナフタ

此賣乗れにま同し出
 NDE LA
 33 - 34
 ARCH
 ker''

 a S. A.
 1900
 is Aires

GRAN PREMIO EXPOSICION
INDUSTRIA ARGENTINA

BILLARES BRUNSWICK
BANDAS MO

Ultima novedad "Snow"
Solicite inform



Cia. Brunswick Sudamerica

1894 - CANGALLO -
U. T. 47, Cuyo 3577 Buenos

急募

KEROSENE YN
NACIONAL
—de—
Luis M. Gardet

ケロセン、ナタフ

の御用命を願ひます

ベアウチエフ街一〇四九
電話 六〇——一九二五

廿歳未満の眞面目青年店員を募集しま
す寫眞同封の上當店宛履歴書を郵送され
たし

ビクトリア街 二〇七二

暑さ凌ぎに
書夜開業
是非ロス・アンデスへ
ビクトリア街九八一
日本人方々の御集りの場所として
有名です

ナフタ並に
ケロセン
販賣

市内ルハニ街三〇八
吉田彌三郎
(バルカルセ街角)
電話 二三一六五四

御旅館並に御下宿
 交通の便より中心に在り
 宴會 ビクニック其他の
 仕出 高貴の御用命に應
 日 高喜作
 レコンキスタ街五八五番
 (第一階 デバルトA)
 電話 三一六九〇六

水産屋
 製造日 火木土曜
 配達日 水金日曜
 地方や田舎への御
 産に至極調法
 アベジャマーネダ
 ビルコマーネジョ
 二二二
 電話(〇〇)九二二二
 關口

M. Tund
U. T. (21) 2021

◆

特別大勉強
：御注文次第迅速に配達致します
特に日本人の方に限りタンケをお貸致します

ツンチドル商會
リオ・クアルト街二九六二
電話 二一三九二

INDUSTRIA ARGENTINA 1933 - 34

**BILLARES BRUNSWICK
BANDAS MONARCH**

Ultima novedad "Snooker"
Solicite informes



Cfa. Brunswick Sudamericana S. A.

1894 - CANGALLO - 1900

U. T. 47, Cuyo 3577 Buenos Aires

KEROSENE YNAFTA
NACIONAL
— de —
Luis M. Gardet e Hijo

洗濯店、染店色各位の
ケロセン、ナタフ
の御用命を願ひます

ベアウチエフ街一〇四九
電話 六〇一—九二五

廿歳未満の眞面目青年店員を募集します
寫眞同封の上当店宛履歴書を郵送され
たし
ビクトリア街 二〇七二

當座預金に
は

當行が最も御便
利です

▽御預金の利率は千弍より
▽年收證書を抵當として不足分
の手形を振り出す事も出来る

(當行のモットー)
便宜 誠〇 迅速

CASA CENTRAL: SUIPACHA 665
SUCURSALES

1 Rivadavia	2499	No. 4 Boedo	870
2 B. de Irigoyen	1459	No. 5 Corrientes	5379
3 Rivadavia	7232	No. 6 Corrientes	300

CINE A C

CORRIENES - 665

土曜 九一二時迄

No.

No.

シネアークニユス映画館

パイロット養成所

特別映画上映

◆シネ・アク館主 ◆ニコラス・ディ
ワイオーレ氏は、英國・防強化の
國策の線に沿ひ、本日より毎土曜
夜間上映終了後、午前一時より三
時迄、特別上映し、その全額を資
金として、献金することになつた

入場料五十仙

九 年
五 年

メ 三 五
六 三 五
ボ ル セ ラ ナ

ス 二
ヤ 二
チ 三
ム 五

ラ バ
電話 玩
具 い ろ い ろ

イ

地方の御注文は代金引換で送致致します

M. - A. - P.
Francisco Sole
日本人洗濯業者諸君!! ブランヂ
ヤは製造者より直接御買ひになる
ことを奨めます 部分品並に修繕
クエジヨ機械の修繕 ドレーゴ街
1039
フランシスコ・ソール

集會案内

◆子供日曜學校 教師 谷 力
毎日曜 日午後二時より
◆日曜禮拜會
毎日曜 日午後三時より
◆聖書研究と新購會
毎水曜 日午後九時より
各集會の出席は自由、求道
者の質問に應じます
市内マガジヤ街一二三五六
電話二一三三四八七

JUAN CALE Y CIA.
Casa Matriz:
123 - PUEYRREDON - 123
U. T. 47, CUYO 0065 Y CUYO 0066
COOP. TEL. 1137, OESTE

ucursal N° 1 **CORRIENTES 3175**
U. T. 62, Mitre 1954 - C. T. 323, Oeste
ucursal N° 2: **RIVADAVIA 2425**
U. T. 47, Cuyo 5998 C. T. 1105, Central

Taller Mecanico
de G. GONZALEZ

プランチャ機 カルデラの修繕 其他
San José 220 Ll. T 38-5923

日本人基督教會

Año XVIII N° 1240

"EL ARGENTIN DJIJO"

PERIODICO JAPONES FUNDADO EN 1924

CORREC
ARGENTINO
FRANQUEO PAGADO
TARIFA REDUCIDA
CONCESION 718

Bs. Aires, Sábado 25 de Enero de 1941

SECCION CASTELLANA

Dirección: Uspallata 981. U. T. 23-7051

Templos de Japón

de RICHARD WEDON

El Santuario de Yasukuni

Traducción por V. Shinya

A cinco minutos de donde vivo, en Kanda, está el Santuario de Yasukuni en el norte Kudan. Un enorme "torii" de bronce que se eleva y es visible de gran distancia señala el acceso al Santuario. Aquí especialmente en los días domingos y feriados triunfa la pompa policroma que caracteriza las atractivas manifestaciones de la vida japonesa.

Los jardines de los santuarios son lugares preferidos por las multitudes en aquellas horas de descanso y esparcimiento. La contemplación, la comunión con la naturaleza es común en ellos. Los jardines de los santuarios con sus árboles y sus flores y sus múltiples senderos, exaltan esa belleza natural. Además el santuario propiamente dicho de construcción elegante, santificado a veces por centurias de adoración piadosa ininterrumpida.

Tokio, como todas las grandes ciudades de Japón, tiene infinito número de santuarios, parques y jardines que brindan a los viandantes el descanso y a la quietud. En Kioto, la antigua capital, es difícil no tener siempre a la vista un templo o un santuario.

El Santuario de Yasukuni en Tokio, tiene aún un significado más profundo, que apela a la naturaleza religiosa y al sentimiento patriótico de los nipones. Es, tarde o temprano una meca para todo buen japonés, pues allí se venera el espíritu de gran número de los caídos en el campo de batalla, en defensa de su patria, cantidad que al presente suma más de 146.000.

Dos veces al año, en primavera y otoño se llevan a cabo cantidad de ceremonias con gran reverencia y solemnidad, los cuales han sido presididos por el emperador en estos últimos años. El rito actual del santuario, se efectúa de noche, a la hora en que las luces de la ciudad son oscurecidas o apagadas. Durante el día, se realiza el "yomise" que congrega en el santuario y sus alrededores a miles de fieles que llegan de distintos puntos del imperio, visitando sus mejores galas.

Estas ceremonias bianuales ocupan un importante lugar en la vida religiosa y cívica. Allí el simbolismo, la religión y el patriotismo alcanzan su máxima expresión, provocando en la conciencia nacional una profunda emoción; la piedad y reverencia por los muertos — aquellos que sacrificaron sus vidas por el bien de la nación — halla aquí su forma más notable y la significación que alcanza el rito no puede fácilmente captarla un occidental.

En occidente tenemos el cementerio de Arlington, un Arco del Triunfo, un Cenotafio donde ocasionalmente se rinde un tributo de homenaje a nuestros muertos, o nos

recuerda una batalla o un sacrificio. Pero los japoneses han exaltado esta reverencia infinitamente más. De los héroes y heroínas reverenciados en Yasukuni, se habla a veces como de "Kami"; por sus hechos, han sido deificados, o más correctamente canonizados. Ya que, en occidente tenemos el paralelo en la canonización de Santos.

En el Japón panteísta, no se tiene de los "Kami" la misma idea que de un dios en el sentido morfológico, sino que lo son para su ideario, el valor moral, el sentimiento, un principio elevado, el genio, las fuerzas místicas de la vida en su inexplicable nexo de causa a efecto, lo que nosotros llamaríamos la fuerza todo poderosa de Dios.

Oriente por su antigüedad ha podido percibir la causalidad en la vida; definir instintiva sino racionalmente muchas de sus causas; determinar sus efectos o fenómenos, de una manera que a los occidentales a veces parece imprudente. Esto es quizá lo que se llama el "misterio de oriente" y que los hace sentir a ratos, a pesar de su bagaje científico, su racionalismo y su intelecto un poco como jóvenes apasionados e impulsivos y un tanto presuntuosos en su ignorancia.

Si no hay tal "misterio" para el sentido práctico del japonés, puede entonces considerarse como la esencia del bien, el descubrimiento empírico y el conocimiento práctico adquiridos a través de milenios, siendo más intuitivos que racionales. Es el epítome del bien, en el cual los japoneses sobresalen. Es la Sabiduría de Oriente.

INSTITUTO CULTURAL ARGENTINO JAPONES

Con motivo de finalizar el séptimo año de actuación del Instituto Cultural Argentino Japonés, las autoridades de esta entidad han dado a publicidad la memoria y balance correspondientes al ejercicio último, documentos en los cuales reflejan toda la actividad desarrollada en ese lapso. Señala la memoria el resultado alcanzado durante ese año en la enseñanza del idioma japonés, y se refiere a los concursos de estudios y monografías sobre el Japón, a la exposición de arte floral, conciertos,

H. KATO

Unica Fábrica Japonesa de Tejidos
de Sedas y Gran Instalación
de Tintorería

Herrera 2007 y 2111 U. T. 21-1841

y actos realizados con motivo del 2.600º aniversario de la fundación del imperio, y de la creación de las embajadas en el Japón y la Argentina.

Ha publicado también un folleto con el texto de las conferencias dictadas en 1940, a cargo de Rebeca Molinelli Wells, sobre "Impresiones de viaje al Japón"; Violeta Shinya, "Japón, rutas de emoción y de belleza"; doctor Enrique G. Frers, "Mirando al oriente: algunos aspectos sociales del Japón"; Ofelia P. Fernández Dario, "Las religiones en el Japón", y doctor Mauricio B. Helman, "Aspectos ganaderos del Japón y Manchuria".

LLEGO UNA DELEGACION COMERCIAL JAPONESA

Con 32 pasajeros en primera clase y 140 en tercera, arribó el día 21 por la mañana a nuestro puerto el vapor "Montevideo Marú", que partió el 24 de noviembre último de Kobe con destino a nuestra capital.

Entre los pasajeros de cámara figuraba una misión comercial japonesa integrada por los señores Tomozi Takayoshi, Sashichiro Nakanishi, Takeshi Kanauchi, Mikisaburo Taniguchi, Fusakichi Tatara y Fumio Omachi.

El señor Takayoshi, miembro de Departamento de Comercio del gobierno imperial de Tokio, inviste el cargo de presidente de la delegación. Nos expresó que la misión no trae representación oficial y que su objetivo es el de realizar uno de los periódicos viajes auspiciados por los organismos económicos de su patria, para consultar las siempre renovadas necesidades del comercio exterior del Japón y aconsejar las medidas tendientes a facilitar su desenvolvimiento.

Agregó que a pesar de la situación creada por la guerra europea, el gobierno japonés está resuelto a promover las gestiones pertinentes para aumentar el intercambio comercial y económico con los países americanos. Nos dijo finalmente el señor Takayoshi que la misión permanecerá unos diez días en nuestro país, y durante ese tiempo, los integrantes de la delegación, todos ellos expertos en cuestiones económicas y comerciales, realizarán gestiones ante los organismos mercantiles de nuestra plaza, para formar opinión en cada una de las ramas de su especialidad e informar luego sobre el particular a las corporaciones que representan. La misión comercial japonesa visitará también Paraguay, Uruguay, Brasil y Venezuela.

En el mismo barco llegaron el médico venezolano doctor Auramarina Colmenares, el sacerdote español presbítero José Avivar y Avivar, el ingeniero belga Edouard Jean Deró y el señor Nicolás Copanos, comerciante de nacionalidad griega, procedente de Yokohama.

La pesca: un deporte de Japón de Rokuo Okada

Como puede deducirse de su situación geográfica, este imperio insular se presta para practicar todas las formas de pesca. Los métodos utilizados por los pescadores profesionales, desde la más remota antigüedad fueron tan variados como curiosos e interesantes.

La pesca con corvejón en el río Nagara es ya demasiado familiar a los occidentales para necesitar más que una mera mención; la pesca a buitrageo o red barrera en la hermosa laguna de Hamanako; el desembarco de langostinos con una red, de la misma laguna durante la época de las lluvias, mientras se dirigen hacia el mar nadando sobre las crestas de las olas. La pesca del bonito y el atún, mar afuera, del "tai" en el pintoresco mar interior. Todos éstos son ejemplos típicos que necesariamente despiertan la curiosidad del espectador.

En este artículo me ocuparé tan solo de la pesca como deporte y no de la pesca en su faz industrial.

La pesca ocupa un lugar importante entre los deportes al aire libre. Casi todos los diarios tienen una sección dedicada a ella, desde ella se informa sobre las novedades que hubieran en los artículos utilizados para la pesca.

Durante la época de pescar truchas, se dan informaciones radiales una vez por semana.

La tendencia actual tiende a generalizar la idea de que es juicioso tomar un día de descanso para dedicarlo a la pesca con el fin de ahuyentar la musaraña del cerebro y combatir las preocupaciones que multiplica la vida moderna.

Hace pocos años un ex "Lord Mayor" de Tokio, un bien conocido Waltoniano disertó sobre la filosofía de la pesca y en ella se refirió a la leyenda que dice que un artista al interpretar el tipo de un tonto reprodujo a un pescador con caña y línea, olvidado de todos los trabajos del mundo y como a un tonto mayor aún, a un hombre mirando al otro pescar, y dijo que si él tuviera que dar ejemplos de los más grandes tontos de este mundo, no titubearía en señalar a aquellos que se rien de los pescadores.

Siendo la naturaleza humana igual en occidente que en oriente, los pescadores de Japón y sus hermanos de occidente tienen una trampa para estirar la verdad o más bien a los peces que pescaron o que estuvieron por pescar. Siendo yo mismo un discípulo de Izaak Walton y un perfecto chambón más que un buen pescador, comparto la idea del ex Mayor de Tokio y de esto decir qué pienso de la inteligencia

de quienes piensan con Byron, que la pesca es un "vicio solitario", negándose el placer de esta recreación y olvidando que por el contrario, la pesca los mantiene lejos del pecado...

...Refiriéndose a algunas de las características de la pesca que se practica en el país. La pesca más importante es la de la trucha, carpa, carpa prusiana, anguila, cangrejo de río, etc.

La pesca de la carpa prusiana es excelente como deporte durante todo el año. En Japón propiamente dicho suelen tener 1 pie de largo y en Sakalin 2 pies aproximadamente. La trucha, cuya pesca cuenta con tantos adeptos en occidente, los tiene en Japón también. El pescador japonés utiliza la mosca sumergida y sólo raramente se le ve poner en práctica el sistema occidental en esta pesca.

Además de la trucha, en los lagos en las montañas y los arroyos como en Nikko, donde abunda; cuando en Japón se habla de la pesca de la trucha generalmente se refiere al "ayu", una especie de trucha de muy buen sabor y que raramente tiene más de 8 pulgadas de largo. Los más avezados, pescan con corvejón en el Nagara y otros lugares.

La pesca del "tanago", que es un pescadito pequeño de unas 3 pulgadas y abunda en la época de los fríos. Como se podrá deducir del tamaño del pez es necesario usar un cordel muy liviano. Durante la época de Tokugawa, la pesca del "tanago" gozó del favor del pueblo y muchas veces brindó un motivo excelente a los artistas de "ukiyo-e". Las cañas más lujosas medían casi un pie y estaban hechas de bambú recamado en oro y plata, y a diferencia de las otras cañas, se sostenía entre el pulgar y el índice. Un conocedor de las cosas japonesas dice que su genio — el de los japoneses — se acerca a la perfección en las vuelven los ojos a la época antedicha y miniaturas. Esto se puede confirmar si se se observa cómo se realizaba la pesca del "tanago".

FLORES DEL JAPON

De acuerdo a la clasificación del Dr. Makino, solamente en la especie de las fanerógamas, se encuentran en Japón entre 8 y 10 mil variedades. Entre este gran número de plantas, hay muchas que son característica de su suelo. Se destacan:

Fuji (Kraunhia floribunda).

El fuji o glicina es una planta peculiar de Japón. La glicina china defiende de la japonesa, mientras que fácilmente crece en Europa o América. La glicina china es la llamada "murasaki fuji", o glicina purpúrea.

La glicina japonesa se divide en dos especies "viz. fuji" y "yama-fuji" (Kraunhia brachy botria). Ambas crecen en la montaña, pero con cierta frecuencia se cultivan en los jardines. El "Yama-fuji" crece en forma salvaje en Shikoku, Kyushu y Chogoku; sus flores son de mayor tamaño pe-

ro su racimo es más corto, en tanto que el "fuji" común que se encuentra, por ejemplo, en el parque de Nara es de racimos muy largos.

Sumire (Viola mandshurica)

La especie "sumire" se llama viola para los botánicos y comunmente, violeta en otros países. Se dice que este nombre tuvo su origen en el "sumitsubo o sumiire" del carpintero o bien en un tintero indio hecho de madera y que adoptaba la forma de esa flor; siempre siguiendo esa teoría, "sumiire" fué poco a poco transformándose en "sumire" el nombre con el cual hoy es conocido.

En botánica, "sumire" se denomina a las flores de color violeta oscuro. Las variedades son: "ko-sumire", "tsubo-sumire" (viola-verecunda), "tachitsubo-sumire" (Viola grypoceras), "akane-sumire" (Viola phalacrocarpa), "tsukushi-sumire" (Viola deffusa), "ezo-sumire", etc.

Japón es el reino de las violetas y se encuentran allí más de cien especies. No hay país en el mundo que pueda ostentar tal variedad.

UNA PUBLICACION INTERESANTE

El Sr. D. Takashi Okada profesor de la Escuela Superior de Comercio de Yokohama ha publicado por intermedio de la Biblioteca de la Sociedad de Geografía e Historia de Honduras el libro: "Mi orientación en Español", con el siguiente sumario:

- 1—Acentuación y pronunciación.
- 2—Anuncios periodísticos.
- 3—El examen.
- 4—Relikanol.
- 5—Repaso gramatical.
- 6—Establecimiento Modelo Terrabusi.
- 7—Arqueológico.
- 8—Cuatro divinidades.
- 9—Flit.
- 10—El tapir o danta.
- 11—Vitaminal.
- 12—Verbos irregulares.
- 13—Cancionero aragonés.
- 14—C. de T. Expresos.
- 15—Can distinguido.
- 16—El viejo y los demonios.
- 17—Mermóz, genio de la aeronáutica.
- 18—Un árbol histórico.
- 19—Escuelas municipales.
- 20—Las "cartas habladas".
- 21—El destino de América.
- 22—La dificultad y la solución.

La publicación de este libro por parte del profesor japonés Okada, al difundir conocimientos del idioma español en Japón favorecerá el mejor conocimiento y el intercambio de ideas con Latino-América.

INSTITUTO CULTURAL ARGENTINO JAPONES

Biblioteca Pública — Cursos de Japonés
INFORMACIONES CULTURALES

Calle VIAMONTE 1435

Kokusai Bunka Shinkokai

(Sociedad de Fomento de Cultura Internacional)
TOKIO, (Japón)

Agente en Buenos Aires: G. YOSHIO SHINYA

CORRIENTES 330

PAGINA DE ACTUALIDADES

Noticias cablegráficas de:

Batavia, 17 de Enero. — De la ciudad capital de la India Holandesa informa que a continuación de las conversaciones preliminares sostenidas entre los representantes japoneses y las autoridades de la India Holandesa, el Cónsul General Ishizawa visitó al Director del Departamento de Comercio, Señor Juan Hogurraten, con el fin de hacerle la entrega de las nuevas proposiciones japonesas sobre el tema de la Conferencia.

Batavia 17. — El Ministro de Hacienda de la India Holandesa, Señor Juan Moke hizo a los periodistas la siguiente declaración acerca de la necesidad de una vinculación comercial más estrecha entre el Japón y la India Holandesa.

La declaración dice: El Gobierno de la India Holandesa no otorga privilegio alguno a ningún país, quise decir que trataremos a todos los países sobre la base de la igualdad de tratamiento. No hay motivo para que el Japón sea excepción. Las conversaciones que sostenemos actualmente con este último país prosiguen en un ambiente más sincero y cordial de amistad internacional. No existe ni el menor motivo para pensar en la alteración de este ambiente favorable para ambas partes. El deseo fundamental y sincero de nuestro gobierno es que el vínculo comercial entre ambos pueblos sean cada vez más estrecho.

Vichy 20. — Con el fin de resolver el conflicto con Siam, el Gobierno de la Indochina Francesa efectúa negociaciones con el Primer Ministro de Thailand, por medio del Ministro interino de Francia ante el Gobierno de Siam.

Desde el frente central de China, 20. — Las fuerzas chinas que actúan en el frente de la región central de China, hacen saber que sufrieron ataques de parte de la aviación militar japonesa. Tuvieron que abandonar en consecuencia, las for-

talezas y demás instalaciones militares que fueron destruidas por la citada aviación.

Shanghai 20. — A partir del día 20 fué abierta la sucursal Shanghai del Banco Central de China. El Señor Chen Ta fué designado presidente de la citada sucursal desempeñando este cagor conjuntamente con el de vicepresidente.

Tokio 21. — El ministro de relaciones exteriores, señor Matsuoka, declaró que si Estados Unidos entra en la guerra contra Alemania el Japón "no tendría más remedio" que participar en el conflicto junto a Italia y Alemania. La embajada y el consulado británico enviaron circulares a todos sus connacionales residentes en el Japón, en la que se confirman sus anteriores indicaciones de evacuación y se advierte que en el caso de empeorar la situación no podría contarse con garantías por parte del Japón, por lo que se recomienda la evacuación inmediata de todos aquellos que no tienen asuntos urgentes en territorio nipón, pero sin ordenar a nadie que salga de dicho territorio.

El primer ministro, príncipe Konoye, se dirigió a la Dieta en términos parecidos a los del señor Matsuoka, especialmente en lo referente al conflicto chinojaponés, respecto al que declaró que la ayuda británica y norteamericana a China no restringiría en forma alguna el programa nipón tendiente al establecimiento del "nuevo orden del Asia Oriental". Afirmó, además, que el Japón destruirá a cuantos opongan resistencia a dicho programa y a los que con ellos cooperen y simpaticen en forma activa.

Las relaciones rusiononas

Otro punto destacado del discurso del ministro fué el evidente interés mostrado en aclarar las intenciones amistosas que hacia Rusia abriga el gobierno japonés, interés puesto de manifiesto al decir, refiriéndose al pacto tripartito, que éste "lejos de estar dirigido contra un país cualquiera, es la manifestación de una cooperación poderosa, pero pacífica, cuyo propósito es el establecimiento de un nuevo orden mundial", reiterando a continuación que el artículo quinto del pacto "establece claramente que éste no está dirigido contra la Unión Soviética".

A continuación, y después de anunciar que acababa de ser firmado el "pacto provisional de pesquería" por un año con Rusia y que ésta había aceptado la creación de una comisión mixta para redactar un tratado permanente de pesquería, anuncio que fué aclamado por los miembros de la Dieta, dijo: "Esperamos sinceramente que la Unión Soviética comprenderá las verdaderas intenciones del Japón, y que ambos países conseguirán reajustar permanentemente sus relaciones",

reiterando así una vez más el deseo de evitar todo conflicto con Rusia.

A continuación anunció que el Japón iría inevitablemente a la guerra en caso de hacerlo Estados Unidos, y dijo: "La confusión reinante en la situación internacional no muestra señales de ceder, sino que por el contrario tiende a agravarse."

"Si, desgraciadamente, Estados Unidos entrara en la guerra europea y también el Japón se viera obligado a participar en otra gran guerra mundial, no se conseguiría sino precipitar una situación que desafiara todas las tentativas que se hicieran por conjurarla".

Referencias a los países sudamericanos

Despertaron gran interés las referencias del señor Matsuoka a la intensificación de las relaciones diplomáticas y comerciales japonesas con los países sudamericanos, que dijo eran motivo de "sincera satisfacción". "El desarrollo de la guerra europea —dijo— nos obligó a suspender o a retirar provisionalmente nuestras representaciones diplomáticas en esa región, pero el servicio diplomático japonés está siendo consolidado constantemente conforme al principio de atribuir especial importancia a ciertos países determinados."

"El Japón y la Argentina han acordado elevar a la categoría de embajada sus respectivas legaciones. Con el Brasil se firmó en septiembre último un acuerdo cultural que ha sido ya sancionado por el emperador, y las relaciones niponabrasileñas son cada día más cordiales".

También hizo uso de la palabra el ministro de hacienda, señor Kawada, quien manifestó que el gobierno pensaba mantener la tasa actual de cambios, que afirmó se había estabilizado desde 1939. Agregó que el nuevo gobierno trata de extender los acuerdos para el saldo de los créditos internacionales en yen, explicando que esto permitiría aumentar el comercio exterior y fortalecería la posición económica del Japón.

Dijo también que sería intensificada la producción de oro a fin de aumentar la capacidad de importación del país, y terminó afirmando que, a pesar de verse la nación ante dificultades sin precedentes, confiaba en que la decisión del pueblo, junto con la potencialidad económica de la nación, superarían la crisis actual.

LAMPARAS "YAMADA" DE CALIDAD



Luz clara - Terminación prolija
Selección especial

USE LAMPARAS
"YAMADA"

En venta en las buenas casas del ramo

Sastrería Japonesa

Fundada en el año 1916

de S. Katayama

PIEDRAS 572

U. T. 33-5462

Tokio 22. — El nuevo embajador del Japón ante la Unión, Señor Nomura partirá a bordo del Kamakura Maru que sale del puerto de Yokohama a las 15 horas del día 23. Lo acompañarán el asesor Señor Wakasugi y el Secretario Señor Okumura.

En el mismo transatlántico partirá para ocupar el cargo para el cual ha sido nombrado recientemente, el Ministro plenipotenciario Tuneso Yanai ante el gobierno de Colonia.

Hoeni 22. — El Jefe de la Comisión Japonesa Señor Sumida y el coronel Koike se entrevistaron con el representante del Gobernador de la Indochina Francesa, Señor Del Salle, con el fin de proseguir las conversaciones.

Tokio 22. — Se firmó en ésta el acuer-

do sobre la coordinación de las empresas de comunicaciones eléctricas del Japón, China y Manchukuo. El acuerdo que acaba de firmarse propicia el desarrollo armónico y más eficaz de las comunicaciones modernas que utilizan la electricidad, entre los países firmantes.

Shingking 22. — Se informa de la capital de Manchukuo que el tratado de Amistad, Navegación y Comercio, que la Misión Económica Española propició cuando su visita a Manchukuo en julio del año pasado, se firmará en el próximo mes de febrero, en la ciudad de Madrid.

Nanking, 23 de Enero. — Según informaciones procedentes de la ciudad de Chungking el encarecimiento inesperado de todos los artículos de primera necesidad ha provocado en ésta, una situación caótica ante la cual sus habitantes temen la llega-

da del terrible estado de cosas, del hambre y de la incertidumbre de su propia seguridad ante la exaltación del estado de ánimo de los descontentos desenfrenados en medio del desorden social. El precio de los comestibles como el arroz se elevó a más de 10 veces del precio normal.

En vista de la crisis y del derrumbe social y económico, ahora más evidente que nunca la opinión pública alza su voz sosteniendo la inutilidad y la más inicua injusticia de la guerra fratricida entre los hermanos del Oriente.

Desde el frente interior de China, 23. — Las fuerzas chinas del interior apostadas próximo a la ciudad de Chungking informan que fueron objeto de recios ataques aéreos de parte de varias escuadrillas de aviones navales japoneses. Sufrieron daños materiales de consideración la fortaleza de Pishan y una batería situada en la margen opuesta a la ciudad de Ichang.

"NAMBET" Compañía de Importación y Exportación Sociedad Anónima Telegramas "NAMBET" U. T. (32) 3061 - 62 - 63 - 64 - 65 y 66 T. T. Buenos Aires, 904 S. MARTIN 379 - 5° p. — Bs. As.	Mitsubishi Argentina Soc. de Resp. Ltda. DIAGONAL NORTE 832 7.º PISO U. T. (33) 2981 - 2982 - 2983	F. KANEMATSU y Cía. Ltda. Importaciones y Exportaciones JUJUY 136 - U. T. 45, Loria 5823 y 5824	S. TSUJI Importador BALCARCE 682 - U. T. 33 Avda. 5744
H. KATO Unica Fábrica Japonesa de Tejidos de Sedas y Gran Instalación de Tintorería Herrera 2099-2111 - U. T. 21-1841	S. YAMADA y Cía. Importadores MORENO 2039 Pasco 48-4094 y 4095	K. Ogawa "NAMBET KUMIAI" CORRIENTES 330 5º piso U. T. 31 - 2690	LA MAISON SATUMA K. YOKOHAMA Objetos de Arte y Antigüedades ESMERALDA 1080 - U. T. 31-8801 Sucursal: SUIPACHA 865 - U. T. 31-4837
SADAO HATTORI IMPORTADOR Especialidad en artículos de Cerámica INDEPENDENCIA 2650 U. T. 45-3218	IIDA y Cía. Ltda. (Takashimaya) Importadores y Exportadores RODRIGUEZ PERA 162 U. T. Mayo 38-3419	M. OMURA Importador de artículos generales del Japón SAN MARTIN 235 - U. T. 33-2683	S. KAISEKI Representante de DAIDO BOEKI KAISHA LTD. Kobe, Japón Importación y Exportación RIVADAVIA 1133 - BUENOS AIRES U. T. 38 - Mayo 7286
KATSUDA y Cía. Importadores MEXICO 1474 - U. T. 38, Mayo 2318	N. HARA y Cía. Importadores BELGRANO 1470 U. T. Mayo 38-2438 y 9437	S. ANDO y Cía. Importadores DEFENSA 532-40 U. T. 33 (Av.) 2296	NAOJI SAITO BUENOS AIRES BOEKI ASSENJO CORRIENTES 330 - 5º piso
B. TAKINAMI Importador Cava Establecida en el año 1905 VICTORIA 2702 - U. T. 45 - 8180	CARLOS C. ISHIY Importador y Exportador Bm. MITRE 341 - U. T. 33 Avda. 9782	JIRO HONDA y CIA. Importadores de Artículos Generales del Japón MORENO 1320 - U. T. 38 Mayo 2718	GUIA JAPONESA EMBAJADA DEL JAPON Corrientes 330 - U. T. 31-3004, 6 CONSULADO DEL JAPON Corrientes 330 - U. T. 31-3004, 6
I. HIROTA Importador de artículos generales del Japón CHILE 1029 - U. T. 37 (Riv.) 0251	TAKAO ARAI Representante de B. ESPECIE DE YOKOHAMA Ltda. Avda. ALVEAR 3900 - 7º. piso U. T. 72 - 1469	Casa "YAMANAKA" Oriental Fine Art Curious VIAMONTE 624 - U. T. 31 7946	NAMBEI KUMIAI Federación de Asociaciones Exportadoras e Importadoras del Japón CORRIENTES 330 - U. T. 31-2690 INSTITUTO CULTURAL ARGENTINO-JAPONES: Viamonte 1435.
N. IKEDA The National City Bank of New York BARTOLOME MITRE 502 U. T. Avenida 33 - 4081	CASA ITOH (S. OHTA) Representante de C. Itoh y Cía. Ltda. SAN MARTIN 66 - Esc. 304-305 U. T. 34, Defensa 5158	K. KAWAI Compañía Argentina, Comercial e Industrial de Pesquería DEFENSA 1597 U. T. 23-8256	ASOCIACION JAPONESA: Patagones 840. — U. T. 23-4893. COMPANIA DE VAPORES O. S. K.: ROQUE S. PERA 616 - 2º Piso U. T. 33-1051 - 1052 - 1053 y 3565